

要約版

第10回市民ふれあいトーク—船穂地区の個性と魅力を伸ばすには—

日時 平成22年1月28日 18:30~20:00

場所 船穂公民館

《市長》

皆さん、こんばんは。

本当に今日のご飯時で忙しい中、多くの皆さんお集まりいただきありがとうございます。毎月1回、このような形で各地区の個性や魅力などについてのお話を伺い、それに対する私の意見や思っていることとお話させていただいています。また、子育てにや福祉に関するテーマなどについても組み合わせて行っています。

今回ちょうど10回目になります。今から8時ぐらまで皆様から、船穂のことについて、思っていることを教えていただきたいと思っています。

目の前に綺麗なスイートピーが置いてあって、さすが船穂ですね。

まず、私が船穂について思っていることを少し最初にお話をしたいと思います。

平成17年8月から倉敷市に合併をさせていただいて、もうすぐ5年になると思います。合併以前から船穂について思っていたことは、なんと言っても農業がすごく盛んなところだということです。

昔のことですが東京銀座の千疋屋に行ったことがあり、その時に置いてあったマスカト・ブドウは、岡山県産のものでした。その町が倉敷市として同じ自治体になっている。そして、スイートピーや金時にんじん、ピオーネのブドウなどをはじめとして、本当に農業が盛んな町だというふうな印象を持っています。

その後、私が船穂のことについて、すごいことをしているなと思ったのが、各家を回っている生ゴミ回収の緑のプラスチックの箱です。なんで家の前にこれが出ているんだろうと合併する前は思っていました。合併することになり、それについてお話を伺ったりしていると、本当にリサイクルに関する町民の取り組みが素晴らしい、皆さんでやっているところだなという印象を持ち、それは今も思っております。

農業に関すること、リサイクルに関することについては、船穂町は倉敷市の中でもトップの地域であると思っていますし、その証拠とっては何ですが、船穂町の農業の担当だった方が今倉敷市全体の農林水産課長として、みんな頼りにして頑張ってもらっています。まさに船穂の農業が倉敷市全体の農業を引っ張っていってもらいたいという思いを持っております。私ばかり話していても何でございますので、皆様から今思っていることなどを教えていただければと思います。

《参加者 A》

子どもの教育について、難しいことは言いたくないんです。ルールを守りましょうと。ルールには挨拶もあるし、守らなければいけないこともあるし、両親にはこうしなければいけないとか、友達にはこうしなければいけないなど全部枠があるわけです。そういうことをもう少し先生が締め付けるのでなく、こうしたら皆おもしろく楽しくできるというような意味で教えたらどうか、子供さんに教えて一緒に遊ぶようにしたら入口が広がるんじゃないかと思うんです。

私はひ孫と一緒に公園に行くんですが、中学・高校ぐらいの人がサッカーボールを持ってきて遊んでいて危なく、近所には野球のボールが飛び込むということがあるんです。一度、若い人に聞いてみたら、やはりルールの間違いです。

あなた方はよそへ行ってくださいと言われ、いろいろ探して2 km 3 km離れたこちらへ来た。こちらではルールがあってそういう球技をすることは相成らんとしているけれど、誰も番はいないので。そういう時は一緒に仲良く遊ぶという意味、ルールを教えてあげたらと思います。

《市長》

ありがとうございます。子どもの教育について、もっとルールを教えるようにというお話だと思います。もちろん学校の教育でも先生たちは一生懸命教えて頑張ってくださいていると思っています。

一つ心配しているのは、大阪の池田小学校の殺人事件があった後、学校の門を閉めないといけないう地域の人々が入りにくい方向に教育環境が進んでいることです。

ただ、去年参加させていただいたときに素晴らしいと思ったのが、柳井原小学校で年末にしめ縄作りを地域の皆さんと一緒に体育館でやっておられて、小学生に地域の皆さんがしめ縄の作り方を1から教えて下さったことです。今の教育長にも話をしているんですが、なるべく地域の皆さんからいろいろ教えてもらえるように、参加をしてもらえる方向にいけばいいと思っています。

《参加者 A 》

船穂町も地域でいろいろ行事がありますから、お飾りの作り方もお年寄りの人が一緒にやって、そういったことを船穂町はずっとしているので、そういうのを魅力といっているのか。

《市長》

それは倉敷市内でも、地域における皆さんと子供さんとの関係が薄いところもたくさんありますから、船穂の一つの大きな魅力だと思いますので、伸ばせればいいと思っています。ありがとうございます。

《市長》

各ご家庭での堆肥センターへの生ゴミ収集に参加をされている方はいらっしゃいますでしょうか……。ありがとうございます。

参加をされていらっしゃる方の中から、そのことについて自分の思うこと、大変なこと、改善点を教えていただけませんか。

《参加者 B 》

私は長年教育行政と学校現場と船穂公民館へ2期8年ほど勤めさせていただきました。生ゴミの話は教育長会等でもよく話が出たことがございます。町村合併前に倉敷管内12町村の集まりが船穂でありましたとき、船穂を紹介するのに何がいいだろうかと思ひまして、生ゴミの堆肥センターへ参加者15名ほどの教育長を引き連れて参りました。これは素晴らしいことだということで、早速何人かがテクノペレットを購入してくださり、その後それぞれの町村から購入に来られるようになったという話を聞きました。

この倉敷管内でも当時としてはトップをきっていたような、環境いわゆる共生型の社会の方式ということで素晴らしい発想であると思います。

私もここへお世話になったときに、町内の公立の学校が給食の残りの生ゴミ処理をお願いしておりまして、給食指導でも大いに効果がありました。調理員たちも調理の工夫に役立てられ、親御さんへも実際こんなに多く子供さんが残しているのかということもあたりまして、そういったことで、大変素晴らしい取り組みだと思います。先般議会で隣の真備町の給食場の残渣も船穂でというお話を聞きまして、これを広げていただくのは大変ありがたいことだと思っております。

《市長》

大変ありがとうございます。テクノペレットの視察を他の町村からも来てくださったり、今でも多くの視察が来ていると聞いております。

真備の給食調理場の残渣のことは、合併をしていただいた1つのいい効果かと思っておりますが、平成21年度の政策を考えると、少し船穂の堆肥センターには余裕があるというお話を伺っておりまして、教育委員会から近くには真備の給食調理場があるんだと説明がありましたので、じゃあ受け入れをしてもらえないだろうかという処理能力を聞きまして、まだ少しあるということで、実現が出来てよかったと思っていて、こういうことがもっと広がっていけばいいなと思っております。

《参加者 C 》

生ごみ堆肥化への取り組みが、ずっと他の地域に広がっていけばいいなと思いつつ、難点が1つ。

夏場に容器にうじ虫が湧くことです。どこの地区の家庭もということかどうか分かりませんが、私どもは夏場に返していただくときに、うじ虫がグリーンの容器の中でウジャウジャしています。私は大丈夫ですが若いお母さんたちにとっては、(生ゴミ収集を) 広げていったときに、難点かと思えます。

また、夏場にうじ虫などが湧いた容器を洗う設備がないお宅はちょっと困難かなと思うことがあります。外で洗える設備がある方とそうでない方と住宅事情によって参加できない、残念だと思う方がいらっしゃるなら、とっても残念だなと思うんです。

全地域にこういうことが広がればものすごくいいんじゃないかと、一石二鳥、三鳥にもなって。船穂町に住んでいて、重いゴミをゴミステーションに持っていかなくていいというのはすごく助かっております。これがずっと広がればいいんじゃないかなという希望を持っております。

《参加者 D 》

私も前は生ゴミを出してたんですけど、女房が「夏場うじ虫が湧いてこんなに汚いのならやらない」と言ってやめたんです。役場に聞いたら、堆肥センターには水道の設備がないから洗えないということで、あそこに一週間ほったらかしにしているから、うじが湧くのだと思うので水道の設備を是非入れてほしいと思います。

《農林水産課長》

堆肥センターは堆肥にする際に、2週間生ゴミを集めてまたお返するというシステム

にしています。うじ虫が湧くということは何かバケツの中に虫が飛んできて卵を産むからなので、蓋をきちっと閉めて管理をしておくで大丈夫ということと、もう1つ洗うところについては、丘陵地にあるので洗うとどうしてもその水が下流地にいつてしまいます。そういうことで洗わずに返そうという結果になっています。

あそこに水道は一応あるんです。

《市長》

うじ虫が湧くから参加がしにくいという方が結構いらっしゃるんですね。

《参加者 E 》

私は今のお話を聞いてびっくり何ですが、ずっと生ごみ処理を出していますけどうじ虫が湧いたことがないのですが、パッキンが緩かったら入るんじゃないかなと思うんです。

私は生ゴミの堆肥化っていうのは、船穂町として誇れるものだと思っていますし、県内外、国外からも視察が来られました。生ゴミを堆肥化するってことはゴミステーションの環境もとてもよくなります。(生ゴミを出さなくなると) 雑紙だけになるので、紙袋に全部一緒に入ると(そんなに量がないので) 極端な話回収は1週間に2回ではなく1回でいいのではと思っています。

とても誇れることだと思っていますし、環境の良いところにスイートピーとおいしいワインができるのではと思っています。すごく力を入れていきたいと思ひますし、倉敷の中で船穂地域が環境についてはモデル地域という位置づけをしていただくと船穂の地区の人も頑張れると思ひますので、行政としてのサポートをよろしくお願ひしたいと思ひます。

《市長》

虫が湧くというお話は多いので、改良がどうできるのか検討していかないといけないと思ひます。

ご家庭での対策をしていただければ防ぎやすいかもしれませんし、堆肥センターの保存の環境にあるのかもしれません。お話が多いということは調査しないといけないと思ひます。

Cさんが言っていたお話を、私も市内全域に広がっていけばいいと思ひます。思ひますが、1番の問題点は今の船穂にある堆肥センターだけでは容量が足りないということと、売れないといけないということです。せっかく作ったものが売れないと、(売ったお金を) 堆肥センター運営にも回していますので、それがちゃんと売れないと。売れるようになってくればもっと受け入れをして、第2の堆肥センターを真備町に作ろうとか児島の方にも作ろうかということになってくると思ひますので、今は売るところが拡大というよりも横ばい状態なんです。そこが1つの課題と思ひています。

その横ばい状態の理由のひとつが、船穂町は最初から堆肥センターをしているということで、視察に各地から来られて中国地方でも導入をされているところが出てきていて、買わずに自分のところで作るようになってきていることです。もちろん環境社会が進んでいいんですが、倉敷市として、もっと販売ルートを開拓しないといけないと思ひているんです。1回買ったださった方は、良さを分かってずっと購入の継続をしてくださることが多いんですが、近くにできるとそこから買ってしまうので、販売ルートの拡大を頑張らないと

いけないと思っています。

真備の給食の残渣も入っていますので、量的にはこれまでよりももっとできるようになってきていますが、販売ルートを確認しながら受け入れを増やしていけるようにできればと思っています。

船穂町の堆肥センターをいつもすごいと思っています。

《参加者 F》 私たちは消費生活の活動をしておりますが、毎年堆肥センターにはたくさんの方の見学の方がおいでくださいます。真庭にエコツアーというのがありますが、船穂の場合エコツアーというか、堆肥センターとワイナリー、生産物のマスカット、スイートピー、金時にんじんなどの見学や作っているところの見学などとセットにしてエコツアーというものを作ったらどうでしょうか。

私たちも（真庭のエコツアーに）参加したことがあるんですが、農業の分野もありバイオマス分野もありで、そういうことをして皆さんに知っていただくというのも必要じゃないかと思うんです。

船穂町の中でもまだ（生ゴミ収集を）実施されていない方にこういうのがありますよというお知らせをするのも大切なことではないかと思うんですが、どうでしょうか。

《市長》

とてもいい考えだと思います、ありがとうございます。

現状を言いますと、Eさんが言ってくくださったように、市役所へ話が来まして堆肥センターへお願いしたりとか、もしくは消費生活学級の関係で来てくださったお話をつないでいただいての見学が多いと思います。

倉敷市内の子どもの見学コースの1つに校長会でも紹介して応募してもらってもいいかと思いましたのと、あと大人向けですね。水島だったら産業観光とかあるんですが、船穂の堆肥センターが組み込まれた観光は、堆肥センターがメインになっているのは無いと思いますので、いい考えだと思います。

《参加者 A》

EM 活性について、イオンなどで各地区の地元でできるものを月に1回か2回紹介していますよね。見に行ったら、船穂町のEM菌は常にでています。（そのイベントをしている人に）あなた方は何回使ったことがありますかとこちらが質問すると、誰も使っている人がいないんです。栄養があっていいとか、汚いところへ散布するとその場所が綺麗になるとかそういう使い方、いいところをほとんど知らない。

自分のところは自分、市は市で他のところは関係ないという格好で連携プレーが無いと思います。EM というものがあるんだったら、私らも使ってみたらこんなにいいことがありましたと連携プレーができるような宣伝をしないと、こっちが質問すると隣は隣、私は知りませんと結局逃げ逃げになるんです。

連携プレーが取れる形にしていったら、1つのことに2つも3つも色んな使い方が、いい知恵が出てくると思います。そういう連携プレーをしたらいいと思います。

《市長》

自分のところの発表とそれを参考して他のところも広がっていくようなことを進めてい

ければと思います。ありがとうございます。

次は農業のことについてお伺いしたいと思っていますが、倉敷の個性と魅力を発信するというので、去年今年と2年間東京の銀座の阪急デパートで、夏に2日間船穂からはマスカット・オブ・アレキサンドリアを持って行って、約300人ぐらいの方に配ってお話を伺ったりしております。

今年はスイートピーを持っていったらどうだろうと思っています。化粧品売場の横が会場なので、デパート側から金時にんじんよりブドウと言われまして、オシャレなイメージを倉敷市には求めているのかと思うので、そういう方向へも進んでいったらどうかと思っています。

船穂の農業のことについて、私は種類に特化して生産を着実にされているところが、倉敷市内の他の地区と比べてすごいとも思っています。改善点や宣伝の仕方などについて、携わっている方でもない方でも教えていただければと思います。

《参加者 G》

以前市役所の職員さんと我々市民とで尾道市と因島へ情報交換に行きました。行政の勉強は市の職員同士で我々はオブザーバーで聞くだけだったんですが勉強になりました。その後、尾道市から因島へ行ったんですが、因島の人はさわやかな感じですが商売熱心というか商魂逞しいというか。

倉敷市もマスカットなど産物いろいろたくさんありますよね。逆に他の市の方でも呼び込めば県外の人に PR が、船穂だったらマスカットの宣伝ができるんじゃないかと。

一緒に行った市民も非常に勉強になったし、おそらくその時一緒に行かれた市の職員の方も何らかの感想を持つとられると思うので、そういうのをされたらどうですか。

《市長》

今のところ、東京ばかりの宣伝になっているので、逆にこちらに来てもらってブドウ狩り、玉島の桃、ということもあるのではないかと思います。

一方で実際の農家の方から、マスカットは1つ1つが非常に高価なものなので、生産の現場に一般の観光の方が入るのは難しく、これは桃も一緒だと伺いました。しかし、一部でもご協力いただけるのであればと思いました。スイートピーもそうかと思います。

私ができると思ったのが、金時にんじんはにんじんの中で最も甘いにんじんだと思うんですが、作ってらっしゃる方いらっしゃいませんか・・・いらっしゃいませんね。

金時にんじんをいただいて、食べ方を聞いたときに、生のままでジュースにして絞って飲んだら1番甘くておいしいよと、その通りにしたらものすごくおいしかったです。普通のにんじんとは全く味が違うので、何かできないかと思うんですが、今ある生産の仕方と、桃で言えば桃のシャーベット・ヨーグルト・ゼリーなど、新たな開発というものをしておられますので、船穂もそういうことができれば良いと思います。

やはり地産地消ですので一部でも協力して下さるところがあれば、来て見て実際に花を採ったりできれば、その買ったものに対する愛着も高まるんじゃないかとお話を聞いて思いました。因島のみかん農園みたいには難しいと思うんですけど、いいお話ありがとうございます。

《参加者 G》

倉敷市が毎月やっている三斎市ですが、県外の業者の人を見かけます。

《市長》

たまに県外の人が来られたりしています。

《参加者 G》

そういうところの人は非常に熱心なんです。僕らがどちらから来られたんですかと1つ話しかけると、家族で今日売り込みに来たんですとか3つも4つも返事が返ってきて、非常にフレンドリーです。

ああいうのを船穂だけでなく全域でやれば、岡山の県民性はわりと高く全国的に受け入れられると思います。実際観光客の人と話をすると、ものすごく好感度をもってくれます。非常に親切だ、素直だ、素朴な感じがあると言ってくれるので、商品を買込みすることももちろんですが、人間性を売り込むのも非常に商品の前に非常に大切だと思います。

《参加者 H 》

船穂小学校 PTA 役員をやっております。船穂小学校でもお飾り作りをしておりますので、是非今年の年末には足をお運びください。

A さんが言われました EM 活性菌ですけど、今年度船穂地区の各学校のプールに使用させていただいております。

5月にもう一度入れますが、今まで見ている限りではかなりプールの汚れも無いということで、効果が出ております。

市長にお聞きしたいんですが、倉敷市というのは古き良き物、美観地区のようなものと新しいものが融合しないといけないと思うんですけど、新しいチボリも、倉敷ブランドもそうですが、そこで新たに何か取り組んでいこうというのを市長は何かお考えなのでしょうか。

スイートピーで化粧品を作ったとか、マスカットもワインはありますけど、ジュースはないですね。ワインだと大人しか飲めないですけど、ジュースだったら子供やお年寄りも飲めるので、そういったものがないとか、津山市なんか B 級グルメのホルモンうどんで億単位の経済効果が出たので、なにか倉敷市も考えてないかということをお聞きしたいんです。

《市長》

新しい商品の開発という面で、市が開発することは難しいと思いますが、おっしゃったように真備も竹から出る水を使って、世界で初めての化粧品を作られているんです。私もつけているんですけど、ほんとに効果があるんですね。水自体がすばらしい水で、竹には浄化作用があるというので、効果があるんじゃないかと思います。竹水の化粧品というのも地区の方たちが、たまたま水が取れることを知ってから改良されたものです。改良される中での技術開発という面で市が補助をしながら、売り出すことが可能になってきたので、こういう形で応援ができればいいなと思いました。

スイートピーも、これだけ色と香りがいいということになれば、化粧品のようなものもできるんじゃないかと思いますし、マスカットのジュースや金時にんじんのジュースもいいと思います。

《参加者 I 》

金時ジュースのことですが、私は毎朝飲んでいますが。曲がったり傷がついているものは没にされるので、そういうものを一括して1年分のジュースが出来るんじゃないかと思っています。

金時にんじんは11月から12月の2、3ヶ月が旬なので、私は土の中に逆さまに埋めて、3月くらいまでジュースにして飲むようにしているんですけど、旬の間にジュースにしたらいんじゃないかなと飲みながら思っているんです。

《市長》

ビタミンのカロチンですね、にんじんをくださった金時にんじん農家のおじさんなんですけど、お肌ツヤツヤだったんですよ。

船穂のワイナリーで使用されるマスカットは味は一緒だけれど千疋屋などに出すものの規格からちょっと外れているものです。にんじんにしても・・・。

《参加者 I 》

にんじんはマスカットより安上がりで、全部が使えるのでいいんじゃないかと。

それと今度は竹のことなんですけど、1月9日の山陽新聞で真備町で竹林の整備をするといわれていたんですけど、船穂もそのようにならないのかと思います。

竹林のことに前々から関心を持っていましたが、真備だけでなく船穂もしてもらったらいいなど。整備してもらったら、竹に太陽があたり次の芽も出てきます。

それと1月21日の山陽新聞の高齢者の給食コストが高くなるような設備について、船穂町で趣味で野菜を作っておられる人はいっぱいいて、余ってしまって捨ててしまう量も多いです。野菜を作ってもほとんど捨てることは、もったいないとも思っていて、給食にそれを使ったらコストが下がるんじゃないかと思います。

《市長》

Iさんの話もHさんの話も同じ観点で考えていく必要があるのかと思います。マスカットのジュースにしても、それが売れないと成り立っていきません。

Iさんが言われた真備の竹林の整備のお話なんですけど、民間の人が持っていらっしゃる竹林を市が全部整備するのは難しいんです。しかし、真備は竹炭の生産組合というものがあって、切り出した竹を捨ててしまうのではなく切って竹炭にして、たけのこ茶屋というところで、竹製品にして売ったり竹炭や肥料にしたりとリサイクルを回しているんです。

今回それを促進していくということで、真備の竹林をひとつのモデルとして行うもので、この切り出したものがうまく先ほどのテクノペレットと同じで販売のルートに乗っていくようになるのであれば、ボーボー生えたままのたけのこも資源になるので、それを切り出しこっちへ持っていきこうとなってくるんじゃないかと思っています。

まず今後どういったことができるかをちゃんと進めていくことによって、それぞれの人が持っている竹を切って売ろうかというふうに進めばいいなどと思っています。まず第一弾として真備を行っているんですけど、もしうまく行って竹が足りなくなっていくようであれば、船穂の竹も倉敷の竹もこっちのルートにのればいいなど。

それをやろうと思ったひとつの理由が、荒廃している竹林が周りの環境に悪く、なんとかしないといけないと思ったからです。ただ市が全部援助をするのは難しいので、今回の

ような仕組みでやっているということなのですが、Iさんのおっしゃっていただいたポイントは良く分かりました。ありがとうございました。

それから高齢者の方の給食については、業者が入札で決まっているんですが、その中で地産地消をもっと進めるようにこれからも言っていこうと思っています。

HさんのEMのプールのお話なんですけれど、私がEMのことでよくお話を聞くことは児島小学校がEMをプールに撒いて効果が結構上がってきているというお話を伺っております。だんだん成果が出てきて、他の小学校に進まっていけばいいなと今思っています。

《参加者J》

柳井原について、高梁川は東と西で二つに分かれていまして、明治26年の大洪水のあと改修され、柳井原のところは柳井原貯水池というものができております。その後変遷がありましたが、43年に国が計画された小田川の洪水対策計画は、その後見直され平成14年にダムは中止になったんです。

お話ししたいのは、高梁川の総合整備計画で小田川の洪水対策が出ておりますが、柳井原堰につきましても、上流に綺麗な水が湧きまして、フナなどいろいろな魚が生息しています。こういう景色、自然の湖というのを残していければ、必ずいい観光資源になると思います。

近い将来、平成26年に橋も計画されており、そういうのも考えますと、自然の環境というのは残しておく必要があると思います。

《市長》

ありがとうございます。小田川の整備計画のことについてのお話と思います。小田川の改修については、先日も倉敷市と井原と矢掛と2市1町の会議がありました。その中でも以前から小田川全流域を洪水が起こらないような河川の計画をしてもらえないかということから起こったお話でありまして、Jさんのほうが良くご存知でいらっしゃると思いますが、柳井原堰は何十年今のような状況で、非常にまとまって綺麗な湖になっているんですけども、小田川の付け替えということになれば、形が変わらざるえないことになろうかと思っています。

今回民主党政権になりまして新たな工事をそう簡単に着工しない言い方をされていますので、どのくらい国の計画が進むのか説明がきていないんですが、全般的な考え方から言えば八ツ場ダムのような大きなダムを作るのはやめるかわりに、1つ1つの河川の整備を、例えば柳井原の整備計画のようなものについては、これまでと同じように力を入れていくと方針では言われているみたいです。

倉敷市としても、国に対して現状の柳井原で生活をされていらっしゃる皆さんへ影響が少ないような方策をとってもらいたいと引き続き言っていこうと思っています。これから整備計画が本格化すると思いますので、その時には是非よろしくご協力をお願いいたします。

《参加者K》

船穂町が倉敷に合併する4、5年前になりますが、船穂みたいな小さいところはどうしても倉敷みたいな大きい都会に埋没、吸収されて地域の住民の声がなかなか取り上げられ

ないということで、地域審議会というのができ、ここで地域の問題は取り上げていかれるという話を聞きました。ところが地域審議会は開かれてるんでしょうけども、どうということが話し合われてどういうふうになったということがさっぱり出てこないんです。

広報に載せてくればいいんですが、広報を見ても載っているようにないので、あれは非公開なんでしょうか。

《市長》

地域審議会につきましては、公開です。しかし市のホームページには載せていますが、広報紙には K さんが言われるように載っていないかと思われます。

《参加者 K》

そうですね、載ってないから開かれていないのかと。

《新市・まちづくり推進課長》

ホームページには、どうということがそこで話し合われたかは掲載致しております。広報紙は、船穂と真備だけの情報を入れた船穂真備版というものを昨年度まで年 4 回発行しており、そのときには掲載させていただきましたが、合併が 1 年以上経過したということで廃止になっております。

地域審議会そのものは必要に応じて開催するものですが、その議題は合併して年数がたっていくと依頼自体も少なくなってくるという状況です。

《市長》

船穂の福祉バスの再編や庁舎の建て替えのことについて説明をしたりしているんですね。大きな改革のことについては審議会にはかるようになってはいるんですが、K さんが言われるように広報が行き渡ってないという意見をいただきましたので、もっと分かりやすい工夫を考えてみたいと思います。

《参加者 L》

私は祭り・イベントのことをお話させていただこうと思います。船穂町だった頃は高梁川の花火大会、町民運動会、ブラックバス釣り大会、ふなめし祭り、夏は盆踊り、もちろん商工会祭り、農業祭とありましたけれども、去年で合併して 4 年目くらいですが、今の状況は農業祭、商工祭、N さんが NPO 法人を立ち上げてしているビッククリスマスツリーくらいになっております。

当時と比べると何も無いねというのが合言葉で、となりの真備町は合併前も後もやけに元気がよく、色んな行事、加工品をされているのが耳に入ったり、目に付いたりするような気がいたします。

もちろんイベントは町民のみなさんが盛り上がるのがいいのですが、産業課などからも声を掛けてくださって、新しいものとは言いませんけれど、復活を。

盆踊りの櫓などがどこかにしまっただけあるんじゃないかという話は出てきますので、新しい産業課のどの課の方が 1 番いいかわかりませんが、そういう人達ともう一度イベント、お祭りが復活できて昔の船穂町が取り戻せたらいいんじゃないかと思うんですが、本当に今は皆さんと集まって何かできるということが少なくなっていました。どちらへ相談行ったりすればよろしいですか。

《市長》

まずこちらにいらっしゃいます船穂支所長、産業係に相談をさせていただいてから本庁の本課へ相談という形になるんですが、確かに真備は元気がいいと思いますけど、でも真備からもやっぱり数が少なくなったと言われてます。外から見たら真備のほうが元気よく見えるんでしょうか。

お祭りに関する市の関与という面で出来るところもあれば、出来ないところもあります。5年前の合併のときにこういう方向で行こうと決めたというのが1つあるので、今日に明日にすぐこうしましょうというのは難しいと思いますが、真備、船穂地区の皆さんから5年たってこういう状況だということを、私もしっかりお伺いしないといけないと思っています。

良くなったところはそれでいいし、足りないところはどういう形だったら市が支援をできるのかという事を考える必要があるのかと。真備の皆さんからも言われることもありますし、逆に自分でこういう面は頑張るから市はこういうところが協力してもらいたいと言われることもありますので、ぜひ考えがありましたら支所にお話をさせていただくことがありがたいと思います。それによってだんだんその話が積み上がってくれば、対応という方向に向かっていくと思っていますので、ぜひ諦めずに根気よくお願いします。

《参加者 L》

お話を聞いて思い出したんですけど、どうして止めたり消えたりしたのかっていうのが、船穂町の時代はかなり助成金が出て、そのプラスで元気が出ていたのに、消えてしまったらとたんに元気がなくなったという話を耳にしたのを思い出しました。

ワイナリーで行っていた緑の音楽祭も予算がない為今年から無くなるのを耳にしまして、唯一のあれも消えたのかとがっかりしております。

《市長》

今の祭りに関する助成金の状況は、旧倉敷市が非常に低い状況だったんです。徐々に下げただけかからないといけない状態になって、下がってしまうと祭りも難しいという状況になってきているのではないかとお話を聞いて思いましたが、経緯としてはおっしゃっていただいたとおりでと思います。

全部が復活していけるかは難しいんですけど、できる範囲で市の理由がつく助成の仕方ができるようなものになればと思うんですが児島では祭りにお金を全く出していないのに、船穂だけに出せますというわけにはいかないところもあって、そのあたりが一番難しいんですけど、地区全体、町全体でたとえば愛育委員さんが計画をしてくださって、地域の皆さんが参加されるということで、市にご相談があって、どういう方向があるのかなという検討になるのではと思うので、是非根気よく相談をしてみてください。

《参加者 M》

Lさんのおっしゃってるのは十分そうだと思いますが、1つ聞いていただきたいのはビッククリスマスツリーは市からの補助金に頼っていません。やっている本人が今日いらっしゃってますので、自分たちでやろうじゃないかというファイトぶりをちょっと聞いていただきたいと思います。

《参加者 N》

補助金をもらってするのもいいですが、地元で子供たちの心に残るようなものができるという点ということで、この中にもボランティアで手伝っていただいているメンバーの方がいます。今年で2年目になりますが、山陽新聞や地域のケーブルテレビ等で紹介させていただきました。

大勢の人に応援をいただいて収支決算はゼロか皆さんの寄付で、やればできるというたくさんの方のボランティアの皆さんがいらっしゃいます。

船穂町も一時はお祭りの助成金が出て、神輿を各町内に1つずつ買えるくらいでしたが、今は出なくなってしまい、子どもが少なくなったこともあり非常に寂しい。小学校の子どもは盆踊りやお祭りなど、無くなったものは経験がないですから、我々はそういう少なくなった子供たちのために、メンバーで頑張っていこうとやっています。補助金は欲しいですが、それをいただいたら我々のやる事がなくなってしまうので、それはダメだということで皆さんに頑張ってもらっています。

《市長》

いつもクリスマスの時は本当に綺麗だなと思っています。お金の面もですが、ボランティアで地域を盛り上げようとかこういうことをやっていただいて、FM くらしきやケーブルテレビ等のメディアを使って、ぜひとも地域の中での盛り上げと他の地域からも知っていただけたところに市はまず力を入れていったらいいんじゃないかと思いました。

玉島のクラレのクリスマスツリーも時期になると、倉敷・児島から見に来られますから、船穂のビッククリスマスツリーがそうになっていく、また他のことでもそうなるような手助けをできればとお話を聞いて思いました。

《参加者 O》

ボランティア団体の安全パトロール隊です。とりあえず私ができることを率先してしたいと思うんですが、私は小さな畑を持っていますので、さっきの肥料（テクノペレット）の話を……。

今日初めて聞いたので分からないんですが、ちょうど今肥料を入れて畑を作り変えようとしている最中なんです。この話を知らなかったの、ホームセンターで肥料を買っています。（畑の）大きさが50メートル四方ぐらいです。（テクノペレットが）だいたいいくらぐらいかかるのか教えてください。

《市長》

10kg入りで780円です。

《参加者 O 中里弘美さん？》

分かりました。それからもう1つ観光の話なんですが、自分ができることだけでやってきたと思うんですが、知り合いにパンフレットを発送したりしています。パンフレットはどこへ貰いに行ったら、市役所へ貰いに行けばいいんですか。

美観地区の宣伝は兄弟に送ったことがあるので、（パンフレットが）あることは知っています。白桃、ピオーネなど勝手にもらって送ってもいいのかなって。今まで許可得たことがなかったの。

《市長》

ありがとうございます。今年新しくパンフレットが変わり、船穂真備地区も入ったパン

フレットになっています。市から差し上げることが可能ですので、是非送っていただけませんか、知り合いの方に。

今日は長時間にわたりまして、皆さんいろいろと発言をいただきましてありがとうございました。私も始めて知ったこともありますし、今後の船穂の農業、産業の発展に繋がっていくようなヒントもいただいたのではないかと思います。

地域の発展のためには何より地域の皆さんのご尽力が必要ですので、ぜひ今後ともよろしく願いいたします。何かありましたら、何か無くても結構ですので、支所長もおります、まちづくりの担当の局長もおります、心強い農林水産課長もおりますし、私もなるべく伺うようにしたいと思います。お祭りの時に伺うことが多かったんですが、回数が少なくなると伺う回数も少なくなるということでは良くないと思うので、なるべくお話が伺えるようにしたいと思います。

今日は本当に長時間にわたりまして、皆さんありがとうございました。

今後ともよろしく願いいたします。